

# 實驗上の育兒

醫學博士 瀨川昌者

## 斷乳

▲斷乳の二時期 乳放れの時期は各國の習慣で孰れも一定して居らぬが、我が日本の如きは随分斷乳時期の永い方であり、併し乳汁は生後永く飲ませると乳汁の營養は次第に稀薄になつて來ます、併し稀薄になつた乳汁だからとて夫れを永く飲ました處で其の乳汁が小兒の害とはならないのです。斷乳の時期に就いては二通りあつて第一の場合は自然に斷乳する境遇になる時期と第二の場合は母親なり乳母なり授乳者からして斷乳すべく仕向ける時期と此の二様の場合であります。

▲母親の妊娠せし場合 小兒をして自然に斷乳させねばならぬ時期と云ふは即ち母親の妊娠した場合を云ふのです、御承知の通り妊娠すると乳汁が出なくなるから小兒の身体には變化を起して來るのです、生後一年内外では未だ乳汁を飲まなければならぬ時代です、然るに乳汁の量が少なつて

來れば勢ひ夫れに代用すべき營養物を與へなければならぬ、今でこそ牛乳にて養育し得ることが出來るけれど昔は牛乳保育の方法もなく據るなく無理と知りつゝ食物を與へるやうなことになるます、可愛さうなもので斯うなると小兒は稍もすると胃腸病を起して、生れもつかぬ虚弱な兒になることがあります、俗に斯ういふ小兒の病氣を痺肝と云つて身体が細つて衰弱して仕舞う、俗間には小兒に對して種々の病名を附けてある「虫を起す」と云ふこと杯は母親から屢々耳にするところですが虫を起す事に就ては後に詳しく説明いたしませう。

### 乳斷と其方法

△他の食物を求む 斷乳のお咄を引續いて述べませう、小兒が自然斷乳せねばならぬ時期は前に申した通りですが、第二の場合即ち母親なり乳母なりが小兒をして斷乳するやうに仕向ける時期がある、夫を茲に説明致さう、元來小兒に際限なく不規則に乳汁を飲ませて置くとは至極可くない事です、殊に生後一ヶ年以上になると母乳一方では

營養が少くなつて到底養育の出来ないものです、故に此時期になると、小兒も自然と他の食物を欲しがるやうな譯になるし、又食物を少しづつ與へなければならぬ時期になるのです。

▲断乳時期の経過 西洋では断乳の時期を示すに小兒生後一年以内が宜いと云つて居る、去れど日本にては未だナカノ夫れが行はれぬと云ふものは日本では舊來の習慣で、前にも云つた通り永く人乳を飲ませつけてあるから、其の習慣を追つて「何うも未だ小兒が人乳を飲みたがるものと無慈悲に乳を放すのも可愛想だ」と母親も爾ういふ考へをもつて居るし且つ老人でもある家庭では尙ほ更ら永く何時までも授乳させるやうな次第になるから何うも生後一年以内の断乳は今日の場合に行はれ難いと信じます、故に私は断乳の時期は生後一年から一年半の間に徐々と乳汁から食物に移り『マア何時の間に乳放れになつたらう』と云ふやうな方法で丹精される事を希望するのです、爾うすれば小兒の消化器にも何の故障なく、發育上にも障害なく美事に断乳時代の経過するに至りま

す。

▲断乳の方法

断乳の事は此の通りに實行な

れば差支へないのですか其間には色々の御質問が起ります或る親は斯う云ふ御質問がありました「母乳を廢めて仕舞つたら牛乳も廢めなければなりませんまいか」と云はれるので、乳汁を廢めたから牛乳までお廢めなさいと云ふ理由ではないのです牛乳は小兒が一日に飲み得られるなら二合乃至三合位の程度まで飲ませる方が可いのです、小兒が二歳になつても三歳になつても其通りになさるが可いのです、又斯ういふ御質問があります「一年半位経つてもナカノ小兒が乳房を放さないで困ります、断乳させる良法はありますか」と云はれるのです、一体母乳は飲ませさへ仕なければ出なくなるものです、然るに断乳させる時期にはまだ乳汁が出るので、出る乳汁を持つて居ながら飲ませぬのは困難に相違ありません古來より斯ういふ場合には乳首へ唐辛をつけたり、芥子を着けたりする之れも一ツの方法ですが乳房へ綳帶をする杯は良き方法で實驗上是れで断乳の効を奏し

ました、又害にならぬ膏藥を貼つても可し何にせよ小兒をして乳汁を飲めば苦いと加辛いと加して懲りさせるのも断乳法の一ツであります。

牛乳養育

▲牛乳の保育多し 小兒を分婉して後不幸にも母親が病氣に罹つて母乳を與へられぬとか、或は生來虚弱なる體質の爲め乳汁が非常に少量いとか事情によつて乳母を得られぬとか云ふやうな總て人乳をもつて小兒を養育し能はざる場合には、止むを得ず牛乳を以つて養育しなければなりません、世間には色々な事情の爲め牛乳にて養育する者は澤山見受けます、人乳で育て、さへ經驗無き母親は随分迷つて、何うして育てたら可からると手に餘ることもありません、況して牛乳をもつて保育する間には疑ひも起らうし、迷ひを生ずる事も多からうと信じます、依つて牛乳保育の方法を述べ御参考供しませう。

▲脂肪質は薄くなる 牛乳の性質と、人乳の性質と其の成分の比較の前に述べてある通り牛乳の成分の方が人乳より蛋白質と鹽分質が勝つて居ま

す事は既に御承知でありませう、一体蛋白質は消化し易いものか又消化の悪いものかと云ふに、是れは消化し終る迄に比較的長い時間を要するから消化は良くないものです、牛乳を薄めもせず其儘飲ませると、小兒は此の蛋白質を充分に、消化し得ない事になるのです、故に安全なる方法として牛乳をば水をもつて薄め、夫れへ砂糖を加へると稍人乳に近き成分となるが、其内の脂肪分は減ずる事になるのです、西洋では新しい純粹の脂肪を夫れへ加へて不足の脂肪を補ふ事もあるけれど、日本今日の状態では純粹の新しい脂肪を得ることはまだ、困難であります、故に素人が下手なことをして脂肪を殖して飲ませるのは却つて危険が多い、夫れよりは脂肪質の薄い儘與へる方が遙に優つて居るので、之れは薄めた儘にして置いて危険のない方が可いのであります。

▲牛乳の薄め方に就て 牛乳の薄め方は生れて一二週間は、牛乳一合と水三合の割合に薄めるのが一般の規則であります、併し人によると薄め方が薄す過ぎるから牛乳一合と水二合の割合

にする方が可からうと云ふ説を唱へる者もあるけれど、總て斯ういふ事は杓子定規には出來ない、必ず一分一厘でも多過ぎたり、少な過ぎたりしては小兒の害になると云ふやうな開きな理屈責めの理由は無いのです、牛乳を飲ませる上に於て少し位の酌酌は差支へないのです、人の身体は左程六ヶ敷いものでなく餘り保育者が心配仕過ぎると夫れが却つて障りとなることもあるのです、デ薄め方は生後の年月によつて換へなければなりません、小兒によつて消化力は異なるもの故、之れを飲ませて胃腸病を起すやうなら其の薄め方は尙醫師に就いて必ず御相談なさい、先づ一般の薄め方と飲ませる分量は次ぎにお咄し致しませう。

(ついで)

▲白髪を黒くする法 瑞西の或る科學者は此程又光線を應用して白き馬の毛を變じて黒色となすを得たるより同一理法に依りて人の白髪を黒色に變ずることを得べしとなし目下切りに研究中なりと云ふ

### 婦人と親族法

太田 英 隆

#### 第二節 養子縁組

養子縁組は我國古來の習慣でありまして、後には法律で此制度が定めらるゝ様になりました、今養子縁組が行はれた原因を尋ねまするに、左に掲げまする三つの理由から來てゐる様です。

第一、宗教上の必要から來てゐるもの、之れは祖先の祭祀を斷絶させないと云ふ所から來たもので今の人より昔の人の人程此觀念が強い様です。

第二、族制上の必要から來てゐるもの、之れは世嗣をさすべき實子のないものが、其宗名を斷絶するを避け様とする所から來てゐるのです。

第三、經濟上の必要から來るもの、之れは家督を相續すべき男子のないものが、其家産を相續し、之れを整理せしむるために、養子をするので、族制上の必要から當然來るべき理由なのです、

右の理由を考へまするに、養子縁組と云ふもの一家が一國の原素である家族制に固有の制度であ